

葉山町地域福祉計画（素案）に対するパブリックコメント（意見募集）の実施結果

実施期間：平成24年12月25日（火）～平成25年1月24日（木）

意見総数：7件（提出人数：4名）

意見の概要	町の考え方
<p>団塊の世代の方が多くなり、元気なシニアの方達に現役時代の経験を活かして社会貢献活動の場を提供できないでしょうか。</p> <p>例えばリーダー（特に災害ボランティア等の育成として養成講座を広報等で呼びかけて開催してみても、興味のある講座であれば受講者の方達集まるのではと思います。</p> <p>ボランティアはしたいが漠然としていてわからないのが皆さんの本音ではないでしょうか。きっかけ作りも大事ななと感じています。</p>	<p>町の福祉を推進する上で、とても重要なことと認識いたします。具体的な内容については、社会福祉協議会、生きがい事業団等の関係機関と連携し、推進に努めます。</p>
<p>自立支援協議会を活性化していただき、町の社会資源について協議をしていただきたい。現在グループホームについては議題にありますが、学齢期・青年期の障害を持つ子どもたちの居場所（拠点）は葉山町にはありません。</p> <p>養護学校、支援級、普通級など所属も学校もバラバラな中、障害を持つ親が知り合える場所、情報交換が出来る場所、横と縦のつながりを持てる場所が公的にありません。</p> <p>個人や任意団体でそのような場を持ってもなかなか必要な人に情報や手が届くわけではありません。</p> <p>公的なものであるメリットと広がりについて議論していただき、必要性を認識していただきたいです。</p>	<p>自立支援協議会がより効果的なものとなるよう、福祉課、子ども育成課、学校教育課等との情報共有を行い、連携に努めます。</p>

<p>自立支援協議会にて障害者が地域に根付くとはどのような環境なのか議論していただきたいです。</p> <p>葉山町には就労の選択肢があまりにも少ないため他市に就労の可能性を求めるケースが多い中、自分が住んでいる町に根付いていく環境とはどのようなものなのでしょうか？</p> <p>職場や施設と自宅の往復である毎日では豊かで安心な地域での生活とはなかなかいかないのでは？</p>	
<p>地域の中でもっと就労できる可能性を模索・議論していただきたい。</p> <p>当事者家族が勉強すべきことを投げかけて欲しい。学齢期から準備・勉強すべきことは学校での教育内でも知っていきたい。障害児が学ぶべきキャリア教育を学校で充実させていって欲しい。</p>	
<p>自立支援協議会にて話し合われた内容について、障害を持つ当事者や家族が閲覧できる議事録を公開していただきたい。既に公開している場合には、閲覧方法を教えていただきたい。</p>	
<p>地域にいる、弱者（障害者など、）は、必ずしも自らの存在、要望を伝えられるとは限らない。むしろ伝えることが難しい方が多い。これら弱者の存在、要望を「吸い取り」一般の健常の方々に、その存在、要望を知ってもらい、地域で広く共有してゆくシステムや拠点が良い。</p> <p>システム化することにより、地域間格差も生じにくく、等しく見守ってもらえる恩恵が受けられる様になるのではないか。</p> <p>そのようなシステムを、子どもの頃から情報の共有を行い、地域内にどういう方々がいて、どのように接していくかを教育していくことによって、福祉の心を育て、差別や偏見のない共生した社会ができていくのではないか。</p>	<p>地域福祉を進める上で大切なご意見と認識いたします。ご意見の主旨を社会福祉協議会や町内（自治）会等と連携し、取り組みの検討や支援に努めます。</p>

私（40代）には、障がいを持つ子どもが居ます。また、義母と同居をしており、高齢者の問題にも避けて通れない状況です。さらには、2人の子どもを育てている子育て世代でもあります。地域福祉の充実を望んでいる1人です。

地域に関わりながら暮らしたいと考えながらも、現実には地域というよりも、「障がいのある子を持つ母」として町の色々な人たちと関わらせていただいています。

「地域」と限定すると、あまり関わっておらず、どのように我が子のことを分かってもらったら良いかと考えながらも、実現が難しい状態です。

「子ども会に入会したら良い」と、社協の方から提案されたこともあります。障がいをもつ子どもを入会させることは、親としては躊躇してしまいます。（参加の仕方、安全面などから他の親御さんにも多大な気を遣わせてしまうと予想するためです。）

子ども会側に、障がいを持つ子を受け入れる体制があればと思います。

お互いの努力で解決するには、膨大なエネルギーが必要とされ、個人にかかる負担が大きすぎます。これを、個人や地域ごとに任されてしまうのでは、地域差が生じたり、やはり障がいを持つ子どもは子ども会には入れない方が良く、ネガティブになったりするでしょう。

子ども会に入れたら、そこで地域の繋がりが自然と生まれ、成人になってからも近所の方に分かって頂けているということで、ずっと地域と繋がっていけないのではないかと思います。

体制が整うことによって、地域差の無い、共助のまちづくりができると信じています。

子ども会に対して、ご意見の主旨を伝えます。また、ご要望の主旨が実現できるよう社会福祉協議会と連携していきます。

こどもの頃から障がいを持つひとや色々なタイプの人と接する機会があるということは、福祉の心も自然と育つチャンスだと思っております。

障がいを持つ子どもが地域で関わりながら暮らしていけるよう、また、子ども会に入会できるような体制づくりをして欲しい。